

## 研究結果報告書

### 研究結果

本研究は、日本統治期のほぼ全期にわたり台湾に在住した小野西洲（<sup>まもる</sup>真盛,1884-1965）という通訳者に注目し、可能な限りその全著作資料を収集し、氏の知識生産活動を時系列的に提示することにより、氏が法院通訳として抱いていた問題意識や言語意識などを解明しようとしたものである。

本研究は、先ず台湾総督府人事資料や『語苑』『台湾日日新報』等を用いて、そこで見いだすことのできる氏に関するすべての資料を集めた上で整理を加え、データベースを作成した。

その結果、研究計画書の段階で予想した著作総数 900 点をはるかに上回る 1370 点（訳書 4 冊、和文 747、漢文 325、漢詩 164、翻訳 110）を発掘し、それを主題・文体・言語・時代などに基づき分類した。これにより、氏の著作活動が一目瞭然となり、日本統治下におかれた台湾社会における法院通訳の姿を明らかにすることができた。

また、西洲氏の出生とその家系に関して、台湾総督府資料の人事記録を基礎にしつつ、さらにデータベース化の過程で明らかになった情報を頼りに、出身地の大分県宇佐市に直接に赴いて現地調査を行った。地元では、津房小学校長（羽下尚道氏）はじめ、地元の教育委員会や新聞社の協力を得て、ついに小野氏の御子息が京都で在世であることを突きとめた。現在、御子息から聞き取り調査を進めているところであり、これまで知られていなかった法院時代の西洲氏の活躍や、戦後の引き揚げ時の状況や卒年までもが明らかになった。

この過程で得られた新情報は、既存の台湾側の文献資料（例えば『林猷堂日記』）の断片情報と見事に一致するため、文献資料の新しい利用法の可能性を提示することも可能となった。これによって、小野西洲研究における突破口を開くことができたとともに、同時代の他の法院通訳や警察通訳の活動を解明するための新しい手がかりを示すことにも繋がることから、今後の研究をさらに深化させる糸口を斯界に提供することも可能となった。

### 研究成果の公表について（予定も含む）

口頭発表（題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

題名：日治下臺灣法院通譯的知識生産活動：以小野西洲為例

（日本統治下の台湾における法院通訳の知識生産活動—小野西洲を中心に）

発表者名：楊承淑

会議名：第 17 回翻訳・通訳教育国際シンポジウム

場 所：「文藻外国語学院」（台湾・高雄）

ページ：上記シンポジウム予稿集（頁 1-22）

文字数：23,472 字

論文（題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

題名：日治下臺灣法院通譯的知識生産活動：以小野西洲為例

発表者名：楊承淑

注：小野氏御子息の聞き取り調査を終え、さらに修正を加えてから投稿する予定です。

書籍（題名・著者名・出版社・発行時期等）